

企画展示「三重の風土と文学」



2013年秋、三重大学が所蔵する三重県関係の貴重資料と、津市の石水博物館所蔵の貴重資料をお借りして企画展示を開催しました。開催にあたって、今回ご執筆いただいた附属図書館研究開発室 協力大学教員の人文学部 吉丸雄哉先生をはじめ、関係者の方々には多大なるご協力をいただきました。



展示資料目録 http://www.lib.mie-u.ac.jp/r_and_d/research/exhibit/mfb.pdf

場所ではないので、位置によっては繊細な印刷物を展示するには照度が高い場所があります。いちいち入館許可をとらなくても、閲覧できるので一般来場者に便利ですが、その分セキュリティの心配もあります。石水博物館の本がたいへん貴重なので、私はまさかのことを心配していましたが、杞憂でよかったです。

展示は三年前から行っている附属図書館蔵貴重書の整理事業の成果です。附属図書館は漢籍約300点と和本約1000点を所蔵しています。漢籍のほうはもともと現名古屋大学文学部教授の井上進先生が三重大学在籍中に目録を作られていました。再度、チェックを済ませて、電子化し、全国漢籍データベースへ登録を申請している、早ければ今年度のうちに館内での一般利用が可能になると思います。和本はカード採りが九割進んだ段階で、目録の完成やOPACへの登録完了は早くて来年度でしょう。目録が完成しましたら、全学で教育・研究に三重大学の貴重書を利用できるようにになります。それまでは、このような展示で本の紹介をすることになります。年に、四回ほどのペースで展示ができればいいと思っています。今後も、展示に気がついたら御覧ください。

(人文学部 吉丸雄哉准教授)

2013年秋季展示「三重の風土と文学」は、10月29日(火)から11月26日(火)まで、附属図書館玄関ホールで行われ、全部で23点の作品を展示しました。石水博物館からお借りした3点と個人蔵の2点を除いた残りの18点はすべて三重大学附属図書館の本です。石水博物館の本はたいへん貴重なので、11月13日から19日までの展示とし、残りの期間はパネル展示としました。個人蔵本はどなたの本ですかと時折聞かれました。実を言いますと、私の架蔵本です。

「三重の風土と文学」が全体テーマで、さらに「三重の風土と文学」「伊勢神宮の遷宮と参詣」「津の偉人」の三部にわけました。やはり昨年が遷宮年であることとは意識しました。「伊勢参宮名所図会」や「神都名勝誌」では遷宮の場面を展示しました。「遷宮物語」は遷宮の記録です。昨年は伊勢神宮への参詣者がとりわけ多く、平成のおかげ参りなどと言われているそうです。おかげ参りの記録「明和神異記」や参宮のガイドブックである「伊勢参宮案内記」「伊勢神宮細見大全」からは、今も昔も変わらないお伊勢さんへの信仰がうかがえます。

「津の偉人」では谷川士清、津坂東陽、齋藤拙堂の三人をとりあげました。三重では伊賀出身の松尾芭蕉や松阪の本居宣長はよく知られていますが、津だけを見て、文学史上に重要な文事をなした人たちがいることを伝えたいと常々思っていました。三人とも教育者として優れていたことも尊敬している理由です。このような偉人たちの業績の顕彰は後世の人間の責務だと思っています。

展示の解題を書くのは何度も経験しているので、何の問題もなかったのですが、私自身は学芸員の資格を持っているわけでもなく、展示の素人であったため、展示作業で頭を悩ませました。玄関ロビーのどの位置に展示ケースを置けばいいのか、どの作品にどの展示ケースが向いているのか、本の順番と順路はどのように設置すればいいのか、照度や湿度はどのように管理すればいいのか、キャプションはどの位置にのせたいのか、などで試行錯誤しながら展示しました。石水博物館の学芸員の龍泉寺由佳さんや本学で学芸員の資格の取得を目指している学生たちからアドバイスをもらえたので助かりました。2013年4月の「藩校の漢籍」展でも感じたことですが、あたりまえの展示をあたりまえに行うのが存外難しいです。

玄関ロビーは、附属図書館の改修によって新たにできたスペースです。素敵な空間ですが、もともと展示用につくられた

吉丸先生から皆さんへ

日本近世文学(江戸時代の文学)を研究しています。とくに18世紀後半から流行する戯作とよばれる庶民文学が研究の中心です。式亭三馬・十返舎一九・曲亭馬琴らの作品をとくに対象にしています。近世文学では未翻刻(くずし字の状態から今の字になっていない)作品のほうが圧倒的に多く、必然的にくずし字で書かれた原本を読む機会が多くなります。本の内容を研究するのではなく、本の形態から本の特徴を考察する学問を書誌学といいます。文学研究にはこの知識も必要になります。



人文学部 吉丸雄哉准教授

美術館や博物館で働く学芸員になるルートから、書誌学を学ぶ人もいますが、私は文学研究から書誌学を学びました。板木に墨をつけて和紙に刷った二、三百年前の本を実際に手にとると、なんともいえない感動があります。これらの古い本は貴重な文化財ですが、市井にまだまだ多く残っています。学生さんのなかで、実家にそういう本があるという人は虫や湿気に気をつけて大事に保管してください。どうしても管理できない場合は、図書館や博物館などに寄贈なさるといいと思います。



貴重書庫での整理作業

